

黙示録2章： イエス・キリストの教会 その1

おさらい

1. 黙示録のテーマ： イエス・キリストの黙示(1節)
2. 黙示録のアウトライン(outline)(19節)
 - 1) あなたの見た事(1章)
 - 2) 今ある事(2-3章)
 - 3) この後に起こる事(4-22章)

今日は、「今ある事」つまり七つの教会に対する主の御言葉について学ぶ。

1. エペソにある教会(1-7節)

一定の形式

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1) イエス様の御姿： 1:13-16にある主の栄光の姿の一部
それぞれの教会に関係するご性質2) イエス様の評価：「知っている」 a) ほめ言葉 b) 叱責の言葉3) 勝利者への約束： 黙示録の終わり(20-22章)に出てくるものの一部 |
|---|

この教会にある問題あるいは課題は？ → 「初めの愛」(4節)

1) 「労苦」と「忍耐」のある教会だった

使徒 20:28-31: 偽教師が教会の中から出てくるという問題。

その後、エペソにいる長老たちはこの問題に果敢に挑戦、勝利を得た。ところが・・・

2) 「初めの愛」から離れてしまった

初めの愛とは？ 1ヨハネ2:24-25「永遠のいのち」

私たちが初めに信じた時に得た救いの喜びのこと

→ 信仰的に正しくあろうと努力しているうちに、救いの喜び、初めの愛を忘れてしまった。

3) 警告：「あなたの燭台をその置かれたところから取り外してしまおう」

イエス様は初めに、「七つの金の燭台を歩く方」として自己紹介された。

つまり、主がそこにおられなくなる、という意味。

→ 主のご臨在がない教会になってしまう！

4) ほめ言葉：「ニコライ派の人々を憎んでいる」

ニコライ＝一般の人々を支配する。つまり聖職者と平信徒の階級制度

5) 勝利者への約束：「神のパラダイスにあるいのちの木の実」

エデンの園に「いのちの木」と「善悪の知識の木」があった。新しいエルサレムにも「いのちの木」がある。

私たちへの適用： 救われて、教会に通い始め、良いクリスチャンになろうとして頑張っているうちに、初めに救われた時の喜びを忘れてしまった。

歴史的な適用： 教会が始まってから(紀元 33 年頃)からヨハネの死(紀元 99 年)までの間。

2. スミルナにある教会(8-11節)

この教会にある問題あるいは課題は？ 「**殉教**」

この都市の名前は「没薬(もつやく)」から来ている。死体の埋葬のときに使われる

指導者はポリュカルポス:ヨハネの弟子。紀元 166 年に、火あぶりの刑

死刑執行人が、「老人が死ぬのは見るに耐えない。キリストを捨てさえしてくれれば、あなたは残りの日を自由に生きられる。」と言ったら、ポリュカルポスは、「86 年間、私は主に仕えてきた。主は私を否まれなかった。私もこの方を否むことはできない。」と答えた。

1) イエス様の自己紹介は、「死んで、また生きる方」

→ 今、彼らに必要な希望！

2) 迫害のゆえ、「苦しみ」と「貧しさ」を経験していた。

イエス様の評価は正反対！「実際は富んでいる」(ヤコブ2:5参照)

Cf. ラオデキヤは「実は自分がみじめで、哀れで、貧しい」(3:17)

→ 今、イエス様が皆さんを見て「富んでいる」と見ておられるか「貧しい」と見ておられるか？

3) 宗教者らによる迫害:「ユダヤ人だと自称しているが、サタンの会衆」

キリスト教会を迫害していたのは、ユダヤ教の会堂の人たちだった。

宗教的に熱心なのに、心は殺意に満ちていることがある。(ヨハネ8:31-47)

→ 2)も3)も、イエス様は「知っている」と言われた。苦しみの時、独りではない！

4) 牢獄での苦しみ

1. 悪魔から(ヨハネ 16:33) 2. 十日というわずかの間(例:ダニエル 1:12)

5) 約束

1. いのちの冠 2. 第二の死(永遠の死、地獄)からの救い

イエス様の叱責の言葉、悔い改めの呼びかけがない！

→ 迫害は教会をさらに清め、強くする。

私たちへの適用: 世の中に生きていの中で、イエス様のゆえに不利になることがある(職場、友人関係)。けれどもその損失は、イエス様にあつてみな満たされる。

歴史への適用: ヨハネの時から紀元 315 年まで(316 年にローマがキリスト教を国教化)。この間に、600 万人のクリスチャンが殉教したと言われている。

右はコロセウム(古代円形演技場)

大衆が、クリスチャンが野獣に食い殺されるのを見て楽しんだ。



3. ペルガモにある教会(12-17節)

この教会にある問題や課題は？ **信仰の妥協**

1)「**サタンの王座**」: 町の中心に大きな偶像があった(アスクレーピオス)蛇の形をしており、医学の神であった。

→ つまり町全体が反キリスト教的であり、クリスチャンは非常に辛い立場にあった。

「アンティパス(全てに反対するの意)」の殉教: ギリシヤ語の「証人」は「殉教者」を意味する。

→ イエス様はこのことを「知って」おられた。私たちの難しい状況をみな知っておられる。

だったら、少しばかり妥協しても良いのか? 答えは No!

2) **偽りの教え**が入り込んだ

一つ目:「**バラムの教え**」 民数記22-25章

モアブの王バラクは、まじない師バラムを、イスラエルを呪うために雇った。ところが、主はバラムがイスラエルを呪うことができないようにされ、かえってイスラエルを祝福するようにされた。

そこでバラムは、イスラエル人自身が神の呪いを受けるようなことをすることができるように、彼ら自身が罪を犯すことができるように、バラクに助言した。それが、1)モアブ人の女をイスラエルに送り込む。2)偶像を拝ませる。3)不品行を行なわせる。

→ 外側からの攻撃はできないから、内側で妥協するようしむけた。

二つ目:「**ニコライ派の教え**」 聖職者と平信徒の階級

3) **主の懲らしめ**: 「わたしの口の剣」

イエス様は初めに、「鋭い、両刃の剣を持つ」と自己紹介された。

これが意味するもの → 1. 罪に対する裁き 2. 救い 黙示録 19 章 15 節

「しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです。(1コリント 11:31-32)」

4) **勝利者への約束**

1. 「隠れたマナ」: 契約の箱の中に、マナの壺があった。命のパンが与えられる。

2. 「白い石」: 裁判の時に「受け入れられる」ことを意味した。

「新しい名」: 自分の名前が神の書に記されている。

私たちへの適用: 少しぐらい妥協しないと、この世で生きてゆけない。嘘もつくこともあるだろうし、お酒を飲むこともあるし…。

教会史への適用: ローマによるキリスト教の国教化(紀元 316 年)

ある日から全ての人がキリスト教徒になった。異教も全てキリスト教化された。

4. テアテラにある教会(18-29節)

この教会の問題は、「**靈的不品行**」

ペルガモの教会にもあった。けれどもペルガモと違い、大半が異教の慣わしを受け入れた。

1) イエス様の御姿: 「燃えるような火の目」「足は光り輝く真鍮(しんちゆう)」

真鍮または青銅は、聖書の中で「裁き」を表す。テアテラの教会には裁きが下る。

2) ほめ言葉: 「行ない、愛、信仰、奉仕、忍耐」

エペソの教会と対照的に、「初めの行ないにまさっている」

→ 愛と信仰において成長しているのは、素晴らしいこと。

3) イゼベルという女

1. 預言者だと自称 2. 偽りの教え 3. 不品行 4. 偶像礼拝 5. オカルト(24節)

※当時の異教のならわしには、必ず「不品行」がともなっていた。

イゼベルは、北イスラエルの王アハブの妻で、ツロ出身。バアル信仰をイスラエルに取り入れて、イスラエルを完全な異教の国にしてしまった。(1列王 16:30-33)

4) 神の裁き:

1. 「死病」: 性病のことか?

2. 「大きな患難」: いわゆる“教会”も大患難を通る。

教会: 1) 目に見える組織や建物の「教会」 2) 目に見えない、新生した人々による教会
黙示録 17 章に、大淫婦として現れる。

5) 一部の者たちの救い: 「ほかの重荷を負わせない」「持っているものを、しっかりと持っていなさい」

ヨハネが言っている勝利者とは? 1ヨハネ 5:4-5

「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」

→ 教会がどんなに酷くならうとも、自分の信仰をしっかりと保っていなさい、という勧め。

6) キリストとの共同統治者としての約束: 「諸国の民を支配する」「鉄の杖」

私たちへの適用: 罪の問題があって苦しんでいるのと、何の葛藤もなく罪の生活をしているのには大きな違いがある。罪意識を感じないで、自分の生活を変えないなら、自分の救いについて真剣に考え直さなければいけない。「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしめる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。(1コリント人 6:9-10)」

教会史への適用: 中世の暗黒時代、宗教改革に至るまで(476-1529年)。